

令和4年1月28日

1月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調で、3共販所への入荷も好調。製材工場の引き取りは良いが、大手製材業者からはトラックの運転手不足で困っている話を聞く。12月の市も完売である。スギ3m柱材は何とか18,000円台を維持、ヒノキ材は3、4mともに30,000円前後で推移している。小径木は全体的に14cm以下の材が少ない。

群馬では降雪の影響も殆どなく、原木入荷は回復し、集荷も容易になった。原木価格は下落傾向にある。製材工場はフル操業、例年よりも機械の凍結が少ない。全体的に引き合いは減少傾向にあるが、プレカット工場からは順調。製品在庫に多少の余裕が出始めたが、間柱等は少ない。製品価格は高値安定であるが、一部で価格調整も見られ、一服感がある。今まで低価格帯で推移していたバタ角や野地板が値上げ傾向にある。

2. 米材

産地ではカナダBC州の洪水で物流網が寸断され、SPF製材品が供給不足になっていること、米国向けの輸出関税が12月から2倍に引き上げられたことで米国の製材品価格は急騰。これに伴い米国内製材工場が原木への引き合いを強めたため、原木価格も急騰している。米国の港頭在庫は低水準が続いている。一方、カナダでは年末のホリデーシーズン後に降雪に見舞われ、ここ1ヵ月間は伐採が急減し、2月以降の配船に影響が出る可能性が強い。米マツIS級並の1月対日輸出価格(推定)は前月比\$40アップの\$1,150になった模様。現在の産地状況が続くと、2月積み的大幅な値上げが予想される。米国の製材品市況は昨年12月最終週に再度\$1,000/Mの大台に乗った。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(1/6)は\$1,038/Mで12月頭に比べ54.2%の上昇。現地ホームセンターの需要も回復傾向にあるが、一時的な動きとの見方もあり、注視が必要である。

11月原木入荷は179千 m^3 でやや低調、1~11月累計で2,135千 m^3 (前年同期比25.8%増)、出荷は192千 m^3 で1~11月累計は2,157千 m^3 (同26.5%増)。在庫は減少し121千 m^3 、在庫率は0.63ヵ月と1ヵ月割れが継続している。国内米材工場では角類の動きは依然好調だが、羽柄類が低調。東京木材埠頭の12月製品入荷は42千 m^3 (前月比341.9%増)、出荷は21千 m^3 (同10.8%増)、

在庫は 56 千 m^3 (同 37.9%増)。12 月は 4 隻のバルク船が入港したため、入荷、在庫量とも大幅な増加。最高値材の入港により荷動きに一服感が出ている。

3. 南洋材

サラワク州では 12 月に本格的な雨期に入り、原木生産は低調。インドは運賃の安いソロモン、スリナムに移行し、同州からの購入量を絞っている。PNG では原木生産は低調だが、主力の中国向けは揚地の滞船が解消し、配船数は徐々に回復傾向にある。またベトナム、韓国、日本からの引き合いも旺盛で FOB 価格は強含み。サバ州では 1 月から原木輸出が解禁され、ライセンス毎に原木生産の 20%が輸出枠となる。1 月予想の原木入荷は 7 千 m^3 、出荷は 4 千 m^3 、在庫 5 千 m^3 。製材品入荷は 33 千 m^3 。

4. 北洋材

産地では冬山に移行し、製材工場の原木入荷は回復している。しかし日本側からの積極的な注文はなく、また中国市場の不振より工場の操業が上がり、供給圧力は強くない。原板、完成品ともにもう一段の値下げが濃厚である。いまコスト最高値のアカマツ野縁製品が入荷し、流通在庫が増えており、多少値下げに応じざるを得ない状況である。国内製材工場では DIY、一般向けとも荷動きが停滞しており、価格の見直しが必要であるが、高値の原板在庫がまだ多く厳しい状況。11 月の製品入荷(東京+川崎)は 19 千 m^3 で順調、出荷は 16 千 m^3 で依然として低調。在庫は 30 千 m^3 で、7 月の底以降、増加傾向にある。

5. 合板

合板用原木の国産材は全樹種で上昇、特にカラマツは供給不足と外材の入荷遅れで高騰。ロシア材は今年から原木輸出税が 80%となり、実質的に輸出禁止になる模様。単板は船不足の影響で入荷遅れが続いている。米材はカナダでの 11 月の集中豪雨による伐採停止、12 月の寒波や大雪の影響で出材は増えていない。

11 月の国内合板生産量は 28.5 万 m^3 、うち針葉樹合板は 27.8 万 m^3 、出荷量は 27.7 万 m^3 で在庫量は 8.9 万 m^3 、うち構造用合板の在庫は 7.0 万 m^3 とかなりの低水準。各メーカーはフル生産を行っているが、働き方改革による労働時間の短縮と作業員不足、原料不足で生産量が伸びない。需要旺盛で不足感が継続しており、価格は強含み。輸入合板は 12mm 品で強いタイト感があるが、前月よりは落ち着いている。価格は常に上がっており、落ち着く気配は今のところない。尿素有不足で耐水ベニヤ(T1)の生産への影響が懸念される。現

地でのコスト上昇（接着剤・運賃・原木・人手不足）で値上がり傾向は続くだろう。11月の合板輸入量は24.0万 m^3 で中国、ベトナム産が高水準の入荷（LVLの急増）、マレーシア産は前月比減、インドネシア産は微増。インドネシアでは依然原木供給が不足しており、北米、日本からの堅調な引き合いで合板価格はジリ高。マレーシアでは慢性的な労働力不足と原料不足により合板生産量は減少。合板価格は引き続き強含みで推移。

6. 構造用集成材

コンテナ船の滞留が10月中旬から深刻化し、入港量は予定を大きく下回っている。現在も今年の第3・四半期分が残っている。コンテナ船の遅れは2月から改善に向かうと予想されるが、不透明である。今年第1・四半期契約価格は€500～€530が予想され、下がったものの依然高値である。現在消費のラミナは第3・四半期契約分の€600を超えるものである。輸入集成材の入港量も昨年10月中旬以降、予定を下回っている。国内流通価格は130,000円/ m^3 以上、今年第1・四半期契約も130,000円/ m^3 程度である。国内メーカーでは特に3m105角と通し柱の引き合いが強い。

7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強い。入荷は例年並みだが、今後の降雪に大きく影響される。解体材は年始の入荷が悪くタイト感が強い。製紙用では国産針葉樹チップの増集荷基調は継続しているが、依然タイト感が強い。燃料用は冬期にはボイラーの燃料消費量が増えるため、増集荷基調にある。在庫は製紙、燃料用ともに少ない。脱炭素の流れで既存の石炭ボイラーに木質燃料を混燃させる動きが活発化している。

8. 市売問屋

構造材では国産材の不足材が少なくなり落ち着いている。外材構造材は不足するとみられるが、値を押し上げるほどの仕事があるかどうか。造作材では国産材、外材とも不足感は見られない。材木店の仕事が少なく、細かいため量的には動かない。東北、北陸地方の大雪の影響で製品入荷が少なくなると予想される。

9. 小売

いろいろな資材不足の影響が続いており、現場の遅れは常態化している。ヒノキKD、スギ集成柱は依然品薄状態で価格は高値横ばい。スギKD柱角はWW集成柱が入荷し始め軟化。米マツ、米ツガ製品の入荷は不安定であるが、荷動きが停滞しており逼迫感はない。欧州材の入荷は少ないが、需要も停滞しており大きな変動はない。WW集成柱のみタイト感が解消されず強含み。ロシア材は市場に勢いがなく、高値警戒感も強いことから低調な荷動きが続い

ている。造作材、羽柄材とも現場の工期の遅れの影響を受けて荷動きは低調である。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和4年1月28日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↘	↗	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↘
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→			
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↘
		アカマツ (KD) 16×40上級	↘	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗